

令和2年度浜田市決算状況をお知らせします

令和2年度の一般会計決算状況は、歳入決算額が441億802万円（対前年度比10.8%増）、歳出決算額が433億5,346万円（対前年度比10.5%増）、翌年度へ繰り越す財源8,928万円を除いた実質収支で6億6,528万円の剰余金が生じました。市の各種財政指標は改善したものの、少子高齢化の影響により、引き続き社会保障関係経費（民生費）が高い水準で推移していることに加え、未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症の地域経済に与える影響が見通せない中で、財政運営は先行きが不透明な状況が続いています。今後も継続して行財政改革実施計画を着実に推進し、持続可能な財政体質の確立に努める必要があります。

歳出総額 433億5,346万円

区分	具体的内容
総務費	庁舎の管理、徴税、地域振興などに使いました。
民生費	子育て支援、高齢者や障がいのある人への支援、生活保護などに使いました。
衛生費	ごみ処理や火葬場の運営、病気の予防、環境保全などに使いました。
農林水産業費	農業・林業・漁業の振興などに使いました。
商工費	商業・工業・観光の振興、企業誘致などに使いました。
土木費	道路・河川・公園・住宅の整備などに使いました。
消防費	消火活動、救急救命などに使いました。
教育費	小中学校・幼稚園・公民館の運営、文化財保護、生涯学習などに使いました。
公債費	借金の返済に使いました。
その他	議会の運営、災害復旧、勤労青少年ホームの運営などに使いました。

令和2年度に実施した事業



山陰浜田港公設市場整備事業
(事業費3億1,482万円)



杵束コミュニティ施設整備事業
(事業費2億650万円)

歳入歳出差引額 7億5,456万円

【内訳】

- ・翌年度繰越金 8,928万円…令和3年度に延長して行う事業に充てられます。
- ・剰余金 6億6,528万円…「財政調整基金」に積み立てるほか翌年度の自主財源として活用します。

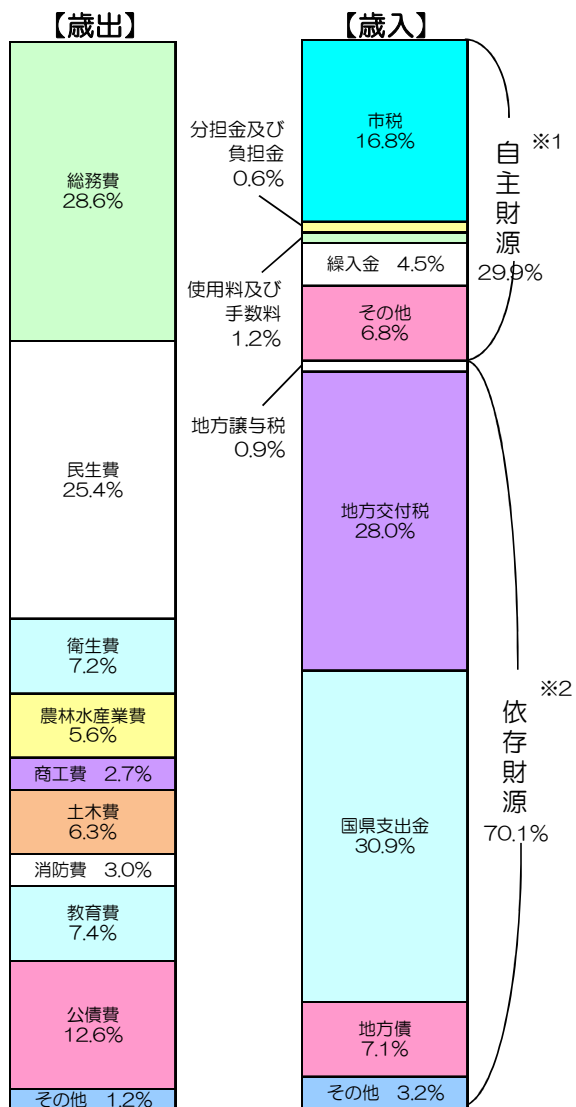
浜田市の会計には、一般会計のほか、特定の収入で支出を賄う特別会計が7あります。また、地方公営企業法の適用を受け、独立採算制を原則とした水道事業、工業用水道事業、公共下水道事業の公営企業会計があります。

■公営企業会計 (単位：千円)

会計名	歳入	歳出
水道事業	2,148,596	1,899,740
工業用水道事業	110,381	103,032
公共下水道事業	515,879	510,355

■特別会計 (単位：千円)

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	6,384,418	6,346,214
駐車場事業	28,094	28,094
公設水産物仲買売場	65,666	65,666
農業集落排水事業	685,927	685,798
漁業集落排水事業	45,251	45,248
生活排水処理事業	50,238	50,227
後期高齢者医療	943,248	921,114



歳入総額 441億802万円

区分	具体的内容
市税	皆さんが納めた税金です。市民税・固定資産税・軽自動車税・たばこ税・入湯税があります。
分担金及び負担金	特定のサービスを受ける人に負担してもらったお金です。保育料・福祉施設入所負担金などがあります。
使用料及び手数料	市の施設の使用料や、住民票の発行手数料などです。
繰入金	基金（市の預金）を取り崩したり、特別会計（次ページ下段参照）から移し入れたお金です。
その他	預金利子や市の貸付けの返済金・事業受託収入・寄附金などがあります。
地方譲与税	国が徴収した揮発油税や自動車重量税などのうち、一定基準が市に配分されます。
地方交付税	市税収入の少ない市でも、市民に一定水準のサービスが行えるよう、国から交付されるお金です。所得税や法人税・消費税・酒税などを配分しています。
国県支出金	市が行う事業に対し、国や県が補助したり負担するお金です。
地方債	多額の経費がかかる事業（道路改修や災害復旧など）を行うために、国や銀行から借りたお金です。
その他	地方消費税交付金・交通安全対策特別交付金・地方特例交付金・配当割交付金などがあります。

※1 自主財源：浜田市が自らの権限で調達できる収入のことです。

※2 依存財源：国や県により交付されたり、割り当てられたりする収入や、政府・銀行などから借り入れた収入のことです。

浜田市の財政指数

指数名	内容	令和2年度 算定結果	財政健全化法	
			早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字率	1年間の標準的な収入と比較した、一般会計の赤字額の割合です。	—	12.46%	20.00%
連結実質赤字率	1年間の標準的な収入と比較した、特別会計や公営企業会計を含む全ての会計を合算した赤字額の割合です。	—	17.46%	30.00%
実質公債費比率 (3か年平均)	1年間の標準的な収入と比較した、一般会計が負担する借金などの返済額の割合です。	10.7%	25.0%	35.0%
将来負担率	1年間の標準的な収入と比較した、将来一般会計が返済する借金などの負担割合です。	44.1%	350.0%	—

浜田さん家の1か月分の家計簿を見てみましょう

※決算額（一般会計）を1万分の1に縮小し、さらに12分の1にして1か月分の家計簿風に見てみると…

支出	市の性質別区分	金額	収入	市の性質別区分	金額
食費	人件費	5万円	給料	市税	6万2千円
光熱水費・日用雑貨代	物件費	3万5千円	家賃収入	使用料及び手数料など	3万2千円
医療費・保育料など	扶助費	6万1千円	預金の取崩し	繰入金	1万6千円
ローンの返済金	公債費	4万6千円	親からの援助	地方交付税・地方譲与税など	11万8千円
子どもへの仕送り	繰出金	2万7千円	兄弟からの援助	国県支出金	11万4千円
家の増築費・新車購入	普通建設費・災害復旧費	3万1千円	借金	地方債	2万6千円
町内会費・ご祝儀など	補助費など	8万3千円	収入合計		36万8千円
定期預金	積立金	2万3千円			
家や車の修理代・友人へ貸したお金	維持補修費・貸付金・投資及び出資金	6千円			
支出合計		36万2千円			

収入合計から支出合計を差し引いた金額は、毎月約6千円、1年で約7万5千円となりました。そのうち、約9千円を翌年度に持っていき、残った約6万6千円を『財政調整基金』銀行などに預金しました。

